

# 春のヤゴ調査会

2022年4月17日(日)

例年一般の参加者を募集して『ヤゴ観察会』を実施していますが、今年新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会員による調査のみ行いました。

講師

互井 賢二氏 房総蜻蛉研究所(行徳トンボ研究室)

天気晴れ。参加者は33名。今回は国府台高校生物部員8名、小・中学生も参加し、にぎやかに調査を行いました。

互井講師から説明を受けたあと、クロスジギンヤンマの羽化殻の観察をしました。



そのあと各自、水槽の中を中心に小さな網や網ジャクシを使ってヤゴを探しました。

## じゅん菜池管理地内 調査結果

- ① アオモンイトトンボ属 110
- ② クロスジギンヤンマ 20
- ③ ギンヤンマ 6
- ④ ショウジョウトンボ 129
- ⑤ シオカラトンボ 24
- 他、クロスジギンヤンマ羽化殻10、脱皮殻2

講師からクロスジギンヤンマのみ♀の見分け方を教えて頂きました。参加者からの質問もたくさんありました。

調査後、ヤゴは元の水槽に戻しました。

## アオモンイトトンボ属

慣れてくると、とても小さなヤゴまで見つけれられるようになりました。間違っ、カゲロウ類の幼虫も捕られていました。



↑こちらはカゲロウ類の幼虫

## ギンヤンマ



小(15mm以下)



中(15mm以上)

## クロスジギンヤンマ



大(35mm以上)

幼齢の頃は特に、何度も脱皮をして大きくなります。ギンヤンマ&クロギンのヤゴは、よくにているので区別が難しいです。

## ショウジョウトンボ

- 頭の形…三角
- 丸みのある腹



## シオカラトンボ

- 頭…四角
- ショウジョウトンボより腹の膨らみがない
- 今回はあまり見つかりませんでした。

